

外へ出ただけで暑しと歩を返す

暑し暑し椅子も机も暖かし
夏空や雲を忘れて風もなき
虹の辺の雲が残つて真白なり

飽きるほど聞きし話の涼しさよ
日時計の時の失せたる夕立かな

白飯に塩かけて食ふこれも夏
町川の夕立濁りの塵芥

夏の夜の密かにプシュとサイレンサ
炎天をスポーツツカアの真つ赤なり

炎暑来て先づ平熱に戻るべし
炎天やガスの炎と同じ色

炎昼や小さなものが遠く燃ゆ
炎天の口臭強き鴉かな

行く夏に取り残されし夏の草
炎天や真白き雲の吹かれをる

温度計伸び切つたまま熱帯夜
西日さへ差さぬ六畳一間なり

鉄のものを色を変へずに灼けてをる
西日差す窓と言ふより硝子壁

きらきらと明るく強く夏の雨
夏の海泣いて済むこと済まぬこと

ぼんぼんと雲を浮べて夏の空
打水の後も大地の固さかな

打水の大分乾きたる時分

泥鰯汁髭の泥鰯の髭も煮ゆ

腹を守る腹掛け布団薄きかな

昼寝して伸びる背丈もなかりけり

冷房に除湿も効かせ昼寝かな

浴衣着てエレベーターの硝子張り

角2023 夏休の擦り傷・捻挫・虫刺され

冷房の排気に汚れ歌舞伎町

爆竹を挿してもみたき蟻の穴

蟬時雨迫り来る死を忘れよと

夏草や排水溝の鉄格子

夏草に容赦なきもの迫り来る

1

04

土毒に灼けてまらぬとも

10am

モコモ

モコモ

9:55 am

水玉がくはて

10:10 am

外へ出ただけで暑しと歩を返す

白飯に塩かけて食ふこれも夏

ぼんぼんと雲を浮べて夏の空

日時計の時の失せたる夕立かな

冠雪の輝くごとく雲の峰

炎天やガスの炎と同じ色

鉄階の真赤に灼けてをらずとも

暑し暑し椅子も机もぼかぼかに

飽きるほど聞いて涼しき話なり

腹を守る腹掛け布団薄きかな

町川の夕立濁りの塵芥

夏の夜の密かにプシュとサイレンサ

2

夜母に聞く
苦話の浮きさ
8.24
11:43 am

母にまた 8.23 10:30 am